

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475400966		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホームなんてん長嶺荘	ユニット名	青山
所在地	宮城県仙台市太白区長嶺8-10		
自己評価作成日	令和3年1月29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本意の理念の基、地域密着型サービスを踏まえ利用者様とご家族様と職員は常に関係を密にし、医療関係者や近隣住民の方々の協力も得て居心地の良い居住空間、生活環境作りに努めている。利用者様の今現在の能力を維持し最大限に能力を発揮出来るように職員は情報共有しながら支援を行っている。各利用者様の趣味や嗜好は異なるが、職員が間に入り共同生活を快適に営む工夫をしている。また職員はこれらの支援が円滑に行えるよう、知識の構築や技術の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは近隣にコンビニや大学キャンパスがあるバス通りに面した住宅地の一角にある。平屋造りで事務所を挟んで2つユニットがあり、日当たりの良い中庭は、緑が多く春は桜が咲く等四季を感じられ、ベンチを置き入居者の憩いの場所となっている。コロナ禍で外出や面会が制限されており、シーツをスクリーンにして映画鑑賞をする等、職員は入居者が室内で楽しめるレクリエーションに創意工夫をして実行している。離設者があった時、近所の方から通報があり、隣のコンビニ店員とは顔馴染みとなる等地域に根差したホームである。課題である避難訓練時に地域住民の参加と風水害時訓練の実施を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームなんてん長嶺荘)「ユニット名 青山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所及び各ユニットの理念は事務所・ユニットの目につく場所に掲示している。理念は1年に1回職員の話し合いにより見直しを行っている。事業所の理念は朝会時に復唱している。	法人理念「利用者本位」を基に、年1回事業所理念とユニット理念を話し合いで作成している。ユニット理念には「笑顔」が共通している。入居者の思いを汲み取り、笑顔に繋がる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、利用者様と近所に買い物に出かけたりし地域との繋がりを持つようにしている。	地域の夏祭りや行事に参加し、ボランティアや幼稚園児の来訪がある等地域住民との交流は良好だったがコロナ禍の為自粛している。年度末の町内会委員会に出席し、ごみ置き場の清掃に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症対策の為、実施を見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に一度書面にてご家族様からのご意見を頂きご家族様が抱えている問題を早期に解決出来るように取り組んでいる。	民生委員や地域包括職員、家族がメンバーとなり奇数月に開催している。今年度は文書を郵送としている。ホームの現況や入居者の様子の写真、ヒヤリハットを報告している。「ご苦労様です」等感謝の言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に勉強会を行う。また毎月のユニット目標に身体拘束や虐待についての目標を掲げ取り組む。	介護保険更新、区分変更や生保関係の諸手続きで相談し、助言を得ている。骨折事故報告で窓口に行った。地域包括主催の勉強会、認知症カフェは自粛している。コロナウイルス感染予防接種の申し込みをした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い虐待についての知識を身に付けるように努めている。毎月のユニット目標にも盛り込んでいる。	身体拘束禁止委員会は3ヵ月毎に開催している。身体拘束・虐待防止の勉強会を行い、見守り介護の徹底、行動制限のある言葉使いについて話し合っている。外に出たい様子を見たら、側に寄り添い一緒に行動するようにしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い理解を深めている。利用者には尊厳を持った対応を心掛けている。	毎月末のユニット会議で勉強会を行い、次月の「目標」を作成している。「一人で座っている方には声をかけよう」等を目標に掲げ、振り返りや評価を行うことにより、不適切ケアをなくすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、参加者がレポートや勉強会にて発表することで全職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は内容の読み合わせを行い、不明な点があった場合はその場で解決出来るように取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所した際さりげなく聞き取りを行っている。運営推進会議時にも、ご意見を頂戴する場を設けている。	運営推進会議の案内を全家族に送り、意見、要望をもらっている。「筋力低下が心配、面会できないか」との要望に、数分間の事務所で面会し、ビデオ通話を実施した。写真入りの入居者毎の便りは喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議の場において、各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。委員会に所属し意見や提案を反映出来るようにしたり、こまめに職員と話す機会を設けるように努めている。	「楽しむ委員会」「安心・きれい委員会」「思いやり委員会」があり、取り組んだ内容を報告し話し合っている。18～21時の時間帯にヒヤリハット事故が多い等検討している。管理者は年1回の個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回自己評価シートを使用し、個別評価と面談を行い、環境や条件の整備に努めている。この他に個別の面談も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせ、定期的に外部研修や内部研修に参加する機会を設け、スキルアップや知識探究が出来る取り組みを行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の会議や勉強会に参加し交流を深めている。行事等にも参加し反映させている。	法人事業者の全体会議に出席し、親睦を深め、交流を図っている。職員は法人内事業所の異動が多いので顔馴染みとなり、行事やイベント時にアドバイスや手伝いに行く等互いのサービスの向上に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者実調シートや基本シートを用いてご本人の思いや不安を傾聴する。サービス開始後は安心して過ごせるように関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安点や困っている事、要望を聞きながら寄り添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者実調シートや基本シートを用いながら、ご本人やご家族の意向を考慮し、状況に合ったサービスの利用に繋がられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を一緒に行い、困っていることがあればお手伝いする等、共存の関係性作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事や運営推進会議に参加し、ご家族の思いを聞く機会を設けたり、来訪時にはご本人の様子を伝えながら、ご家族の意向を聞き取れるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お気に入りの美容室を定期的に利用したり、ご友人が来訪したり、電話をくださる。馴染みの関係が途切れないように努めている。	親戚、友人等の来訪があり、家族と馴染みの美容院へ行く、自宅に泊まる等していたがコロナ禍の為自粛している。携帯電話を持ち、家族や友人と自由に話している方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考えながら、座席の配置等を考慮している。会話の仲介に入り、孤立することなく関わり合いが持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもお手紙や電話を頂戴することがあり、近況等をお聞きする中で、相談・支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の言葉を聞き行動を「見守りながら記録を残し、職員同士の意見交換にて情報共有に努めている。	日々の何気ない会話の中から把握し、個人記録に記載し話し合っている。「酒が飲みたい」は甘酒、「腹が減った」は飴を勧めている。意思疎通が困難な方は、ウロウロと動き回る動作や表情で把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時に、ご家族より生活歴や今までの暮らし方をお聞きし、サービス利用の経過を職員間で共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や心身の情報を個人記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各利用者様のモニタリングを行い、話し合いの場を設けている。ご家族様にも面会に来られた際には現状をご報告し理解に努めている。	月1回担当職員がモニタリングをし、6ヵ月でカンファレンスを行い見直し作成をしている。家族に電話等で説明し同意を得ている。車椅子で退院となった方に起立を促す事等、具体的計画内容の援助方法を加えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で些細な変化を気付けるように、申し送りや記録物についてはこまめに記載するように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節行事や外出のみならず本人の意向を汲み取り、その時々状況に柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会活動や近所のコンビニ店を利用し、友好関係を築けるように努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得て希望に沿ったかかりつけ医を受診し、適切な医療を安心して受けられるように支援している。	希望するかかりつけ医に受診が4名、他は在宅診療医の診察を受けている。専門医の受診は職員が同行している。受診結果は申し送りノートに記載し共有している。歯科医が月2回来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整えており、週1回看護師が定期訪問し健康管理を行い、相談や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いの際に病院関係者とご本人の状態等の情報交換を行っている。更にご家族に対する医師の病状説明時には極力同席し、早期退院や病状の把握に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族やご本人の意向を伺い、事業所としての支援方法を説明している。体調に変化が生じた際は直ぐに連絡し主治医の指示等もお伝えしている。状況に応じてご家族の意向をその都度確認している。	「看取り介護の指針」「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に本人、家族に説明し同意を得ている。状態の変化に応じて再度医師と関係者と話し合い、方針の統一を図っている。看取りの経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に落ち着いて対応できるようにマニュアルを整備し、初期対応の訓練に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。自動火災報知機・消火設備の説明を防災設備業者の立ち会いの下実施している。	年2回夜間想定で訓練を実施している。訓練計画書を作成し、入居者の避難順番を記載している。出火場所は事前に知らせず、当日捜索・確認することで対応する訓練を行っている。反省と課題を話し合っている。	いざという時に慌てずに避難できるよう備えることは重要である。運営推進会議等で話し合う等、地域住民の方に協力が得られるよう働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内の委員会(接遇委員会)が中心となり声掛けや対応についての勉強会を実施して、プライバシーの保護に配慮するよな支援を意識化している。	急に体に触れるとびっくりするので、必ず声をかける等「介護における声がけの大切さ」や「プライバシー保護」の勉強会を行っている。入浴時の同性介助やイベント時に化粧をする方に声がけする等に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で自己決定しやすいように導き答えやすい問いかけや分かりやすい言葉で話しかけ、表情や動作等を注視し思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、利用者様の生活ペースを第一とし希望に沿った対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい衣類を選んでもらったり、日々の美容ケア等でご本人が習慣としていることを大切にしよう努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせて一緒に準備や後片付け行っている。食事の楽しみを感じて頂けるようにおやつや飲み物に嗜好を取り入れている。	献立は配食業者を利用している。週1回昼食に入居者の好みに別メニューにしている。パンや肉が多い。パンの時はサンドイッチやロールパンを入居者と一緒に作る。敬老会に折詰弁当、誕生日にケーキ等楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し摂取状況を把握し、一人ひとりの状態把握に努めている。状態に合わせて食事形態を変えたり摂取しやすいもので捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。能力を活かしつつ、その方に応じて職員が仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況や状態を記録し排泄パターンの把握に努めている。把握したパターンを基にトイレでの排泄や自立を促している。	排泄チェック表を基に、定時の声かけやウロウロと動き回る等のサインを見逃さずトイレ誘導をしている。夜間はパッドで調整時間で声をかける等、一人ひとりの状態に合わせた個別支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や冷たい牛乳の提供、軽体操や事業所内の歩行を促し便秘予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	体調や気分を考慮し入浴が楽しみに感じて頂けるように、会話や声掛けを工夫している。	週2～3回の入浴を基本としている。拒否のある方には、時間をおいて「温かい所に行きましょう」と声かけする等工夫している。浴槽を跨ぐのが困難な方の為入浴補助リフトに改装し、安全で安心した入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に配慮しその方に応じて休憩時間を設けたり、体への負担が無く眠れるように支援している。室温、湿度や照明等にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイリングして、いつでも閲覧出来るようにしている。内服薬の変更が医師よりあった場合は職員間で口頭・記録に記入し情報共有に努めている。副作用や薬の働きに関しては医師や薬剤師の方に伺っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせ家事手伝い等の役割を持って頂き、張り合いのある生活が送れるように努めている。事業所周辺を散策したり、季節行事やレクリエーションを行い気分転換を図って頂いている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に配慮し定期的に外出出来る機会を設けている。会話の中で本人の希望を汲み取り、事前に外出先を伝え、楽しみを持って生活出来るよう支援に努めている。	季節毎の外出は年間行事として実行していたが、コロナ禍の為自粛している。天気の良い日はホーム周辺を散歩、近隣のコンビニに買い物等に出かけている。秋はドライブで紅葉見学に秋保に行った。ベランダに椅子を置き日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の管理能力に応じて、ご本人に金銭管理をして頂いている。また欲しい物がある場合は希望に応じて一緒に外出し買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話を使用して頂いたり代行して電話をかけたりしている。手紙についても希望に沿う形で支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事記念写真の展示や飾り付けを工夫し季節を感じることを出来るようにしている。不快や混乱を招くような刺激が発生しない様に配慮している。	リビングは日当たりが良く明るい。温湿度は日に2回の管理で適温を保っている。壁に行事時の写真や作品が飾っており、雛祭りの飾りが季節を感じる。ソファや椅子を置き、一人になったり、仲良しと談話する等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で落ち着けるスペースを設けたり、気の合う利用者様同士が気軽な過ごせるように長椅子を設置し環境作りを工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、自分の家で過ごしているような居心地の良い居室に近付けるよう工夫している。	ベッドや洗面台、エアコンが備え付けであり、居室によりトイレとクローゼットがある。タンス、鏡台、テレビ等を使い易いように配置している。家族の写真や習字等の作品を飾り、居心地の良い自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かりやすく表示し、利用者様の「できること」「わかること」を職員間で共有することで、安全に安心して生活出来るよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475400966		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホームなんてん長嶺荘	ユニット名	桜木
所在地	宮城県仙台市太白区長嶺8-10		
自己評価作成日	令和3年1月29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本意の理念の基、地域密着型サービスを踏まえ利用者様とご家族様と職員は常に関係を密にし、医療関係者や近隣住民の方々の協力も得て居心地の良い居住空間、生活環境作りに努めている。利用者様の今現在の能力を維持し最大限に能力を発揮出来るように職員は情報共有しながら支援を行っている。各利用者様の趣味や嗜好は異なるが、職員が間に入り共同生活を快適に営む工夫をしている。また職員はこれらの支援が円滑に行えるよう、知識の構築や技術の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは近隣にコンビニや大学キャンパスがあるバス通りに面した住宅地の一角にある。平屋造りで事務所を挟んで2つユニットがあり、日当たりの良い中庭は、緑が多く春は桜が咲く等四季を感じられ、ベンチを置き入居者の憩いの場所となっている。コロナ禍で外出や面会が制限されており、シーツをスクリーンにして映画鑑賞をする等、職員は入居者が室内で楽しめるレクリエーションに創意工夫して実行している。離設者があった時、近所の方から通報があり、隣のコンビニ店員とは顔馴染みとなる等地域に根差したホームである。課題である避難訓練時に地域住民の参加と風水害時訓練の実施を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームなんてん長嶺荘)「ユニット名 桜木」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所及び各ユニットの理念は事務所・ユニットの目につく場所に掲示している。理念は1年に1回職員の話し合いにより見直しを行っている。事業所の理念は朝会時に復唱している。	法人理念「利用者本位」を基に、年1回事業所理念とユニット理念を話し合いで作成している。ユニット理念には「笑顔」が共通している。入居者の思いを汲み取り、笑顔に繋がる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、利用者様と近所に買い物に出かけたりし地域との繋がりを持つようにしている。	地域の夏祭りや行事に参加し、ボランティアや幼稚園児の来訪がある等地域住民との交流は良好だったがコロナ禍の為自粛している。年度末の町内会委員会に出席し、ごみ置き場の清掃に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症対策の為、実施を見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に一度書面にてご家族様からのご意見を頂きご家族様が抱えている問題を早期に解決出来るように取り組んでいる。	民生委員や地域包括職員、家族がメンバーとなり奇数月に開催している。今年度は文書を郵送としている。ホームの現況や入居者の様子の写真、ヒヤリハットを報告している。「ご苦労様です」等感謝の言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に勉強会を行う。また毎月のユニット目標に身体拘束や虐待についての目標を掲げ取り組む。	介護保険更新、区分変更や生保関係の諸手続きで相談し、助言を得ている。骨折事故報告で窓口に行った。地域包括主催の勉強会、認知症カフェは自粛している。コロナウイルス感染予防接種の申し込みをした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い虐待についての知識を身に付けるように努めている。毎月のユニット目標にも盛り込んでいる。	身体拘束禁止委員会は3ヵ月毎に開催している。身体拘束・虐待防止の勉強会を行い、見守り介護の徹底、行動制限のある言葉使いについて話し合っている。外に出たい様子を見たら、側に寄り添い一緒に行動するようにしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い理解を深めている。利用者には尊厳を持った対応を心掛けている。	毎月末のユニット会議で勉強会を行い、次月の「目標」を作成している。「一人で座っている方には声をかけよう」等を目標に掲げ、振り返りや評価を行うことにより、不適切ケアをなくすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、参加者がレポートや勉強会にて発表することで全職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は内容の読み合わせを行い、不明な点があった場合はその場で解決出来るように取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所した際さりげなく聞き取りを行っている。運営推進会議時にも、ご意見を頂戴する場を設けている。	運営推進会議の案内を全家族に送り、意見、要望をもらっている。「筋力低下が心配、面会できないか」との要望に、数分間の事務所で面会し、ビデオ通話を実施した。写真入りの入居者毎の便りは喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議の場において、各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。委員会に所属し意見や提案を反映出来るようにしたり、こまめに職員と話す機会を設けるように努めている。	「楽しむ委員会」「安心・きれい委員会」「思いやり委員会」があり、取り組んだ内容を報告し話し合っている。18～21時の時間帯にヒヤリハット事故が多い等検討している。管理者は年1回の個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回自己評価シートを使用し、個別評価と面談を行い、環境や条件の整備に努めている。この他に個別の面談も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせ、定期的に外部研修や内部研修に参加する機会を設け、スキルアップや知識探究が出来る取り組みを行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の会議や勉強会に参加し交流を深めている。行事等にも参加し反映させている。	法人事業者の全体会議に出席し、親睦を深め、交流を図っている。職員は法人内事業所の異動が多いので顔馴染みとなり、行事やイベント時にアドバイスや手伝いに行く等互いのサービスの向上に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者実調シートや基本シートを用いてご本人の思いや不安を傾聴する。サービス開始後は安心して過ごせるように関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安点や困っている事、要望を聞きながら寄り添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者実調シートや基本シートを用いながら、ご本人やご家族の意向を考慮し、状況に合ったサービスの利用に繋がられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を一緒に行い、困っていることがあればお手伝いする等、共存の関係性作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事や運営推進会議に参加し、ご家族の思いを聞く機会を設けたり、来訪時にはご本人の様子を伝えながら、ご家族の意向を聞き取れるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お気に入りの美容室を定期的にご利用したり、ご友人が来訪したり、電話をくださる。馴染みの関係が途切れないように努めている。	親戚、友人等の来訪があり、家族と馴染みの美容院へ行く、自宅に泊まる等していたがコロナ禍の為自粛している。携帯電話を持ち、家族や友人と自由に話している方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考えながら、座席の配置等を考慮している。会話の仲介に入り、孤立することなく関わり合いが持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもお手紙や電話を頂戴することがあり、近況等をお聞きする中で、相談・支援出来るように努めている。		
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の言葉を聞き行動を「見守りながら記録を残し、職員同士の意見交換にて情報共有に努めている。	日々の何気ない会話の中から把握し、個人記録に記載し話し合っている。「酒が飲みたい」は甘酒、「腹が減った」は飴を勧めている。意思疎通が困難な方は、ウロウロと動き回る動作や表情で把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時に、ご家族より生活歴や今までの暮らし方をお聞きし、サービス利用の経過を職員間で共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や心身の情報を個人記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各利用者様のモニタリングを行い、話し合いの場を設けている。ご家族様にも面会に来られた際には現状をご報告し理解に努めている。	月1回担当職員がモニタリングをし、6ヵ月でカンファレンスを行い見直し作成をしている。家族に電話等で説明し同意を得ている。車椅子で退院となった方に起立を促す事等、具体的計画内容の援助方法を加えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で些細な変化を気付けるように、申し送りや記録物についてはこまめに記載するように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節行事や外出のみならず本人の意向を汲み取り、その時々状況に柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会活動や近所のコンビニ店を利用し、友好関係を築けるように努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得て希望に沿ったかかりつけ医を受診し、適切な医療を安心して受けられるように支援している。	希望するかかりつけ医に受診が4名、他は在宅診療医の診察を受けている。専門医の受診は職員が同行している。受診結果は申し送りノートに記載し共有している。歯科医が月2回来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整えており、週1回看護師が定期訪問し健康管理を行い、相談や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いの際に病院関係者とご本人の状態等の情報交換を行っている。更にご家族に対する医師の病状説明時には極力同席し、早期退院や病状の把握に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族やご本人の意向を伺い、事業所としての支援方法を説明している。体調に変化が生じた際は直ぐに連絡し主治医の指示等もお伝えしている。状況に応じてご家族の意向をその都度確認している。	「看取り介護の指針」「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に本人、家族に説明し同意を得ている。状態の変化に応じて再度医師と関係者と話し合い、方針の統一を図っている。看取りの経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に落ち着いて対応出来るようにマニュアルを整備し、初期対応の訓練に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。自動火災報知機・消火設備の説明を防災設備業者の立ち会いの下実施している。	年2回夜間想定で訓練を実施している。訓練計画書を作成し、入居者の避難順番を記載している。出火場所は事前に知らせず、当日捜索・確認することで対応する訓練を行っている。反省と課題を話し合っている。	いざという時に慌てずに避難できるよう備えることは重要である。運営推進会議等で話し合う等、地域住民の方に協力が得られるよう働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内の委員会(接遇委員会)が中心となり声掛けや対応についての勉強会を実施して、プライバシーの保護に配慮するよな支援を意識化している。	急に体に触れるとびっくりするので、必ず声をかける等「介護における声がけの大切さ」や「プライバシー保護」の勉強会を行っている。入浴時の同性介助やイベント時に化粧をする方に声がけする等に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で自己決定しやすいように導き答えやすい問いかけや分かりやすい言葉で話しかけ、表情や動作等を注視し思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、利用者様の生活ペースを第一とし希望に沿った対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい衣類を選んでもらったり、日々の美容ケア等でご本人が習慣としていることを大切にするよう努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせて一緒に準備や後片付けを行っている。食事の楽しみを感じて頂けるようにおやつや飲み物に嗜好を取り入れている。	献立は配食業者を利用している。週1回昼食に入居者の好みで別メニューにしている。パンや肉が多い。パンの時はサンドイッチやロールパンを入居者と一緒に作る。敬老会に折詰弁当、誕生日にケーキ等楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し摂取状況を把握し、一人ひとりの状態把握に努めている。状態に合わせて食事形態を変えたり摂取しやすいもので捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。能力を活かしつつ、その方に応じて職員が仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況や状態を記録し排泄パターンの把握に努めている。把握したパターンを基にトイレでの排泄や自立を促している。	排泄チェック表を基に、定時の声かけやウロウロと動き回る等のサインを見逃さずトイレ誘導をしている。夜間はパッドで調整し時間で声をかける等、一人ひとりの状態に合わせた個別支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や冷たい牛乳の提供、軽体操や事業所内の歩行を促し便秘予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	体調や気分を考慮し入浴が楽しみに感じて頂けるように、会話や声掛けを工夫している。	週2～3回の入浴を基本としている。拒否のある方には、時間をおいて「温かい所に行きましょう」と声かけする等工夫している。浴槽を跨ぐのが困難な方の為入浴補助リフトに改装し、安全で安心した入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に配慮しその方に応じて休憩時間を設けたり、体への負担が無く眠れるように支援している。室温、湿度や照明等にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイリングして、いつでも閲覧出来るようにしている。内服薬の変更が医師よりあった場合は職員間で口頭・記録に記入し情報共有に努めている。副作用や薬の働きに関しては医師や薬剤師の方に伺っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせ家事手伝い等の役割を持って頂き、張り合いのある生活が送れるように努めている。事業所周辺を散策したり、季節行事やレクリエーションを行い気分転換を図って頂いている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に配慮し定期的に外出出来る機会を設けている。会話の中で本人の希望を汲み取り、事前に外出先を伝え、楽しみを持って生活出来るよう支援に努めている。	季節毎の外出は年間行事として実行していたが、コロナ禍の為自粛している。天気の良い日はホーム周辺を散歩、近隣のコンビニに買い物等に出かけている。秋はドライブで紅葉見学に秋保に行った。ベランダに椅子を置き日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の管理能力に応じて、ご本人に金銭管理をして頂いている。また欲しい物がある場合は希望に応じて一緒に外出し買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話を使用して頂いたり代行して電話をかけたりしている。手紙についても希望に沿う形で支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事記念写真の展示や飾り付けを工夫し季節を感じることを出来るようにしている。不快や混乱を招くような刺激が発生しない様に配慮している。	リビングは日当たりが良く明るい。温湿度は日に2回の管理で適温を保っている。壁に行事時の写真や作品が飾っており、雛祭りの飾りが季節を感じる。ソファや椅子を置き、一人になったり、仲良しと談話する等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で落ち着けるスペースを設けたり、気の合う利用者様同士が気軽な過ごせるように長椅子を設置し環境作りを工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、自分の家で過ごしているような居心地の良い居室に近付けるよう工夫している。	ベッドや洗面台、エアコンが備え付けであり、居室によりトイレとクローゼットがある。タンス、鏡台、テレビ等を使い易いように配置している。家族の写真や習字等の作品を飾り、居心地の良い自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かりやすく表示し、利用者様の「できること」「わかること」を職員間で共有することで、安全に安心して生活出来るよう配慮している。		